

可視化

ビッグデータ時代の科学を拓く

日時 平成 26 年 9 月 22 日 10:00~18:00

場所 日本学術会議講堂

(〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34)

開催趣旨

ビッグデータ時代において、可視化は科学の発展との向き合い方に大きな期待がかかっていますが、可視化は今後どうあるべきであるのか、いくつかの問いを提起いたします。本シンポジウムでは、可視化先進活用・研究について、第一人者の取り組み、事例、経験について報告を聞き、会場の聴衆とともにビッグデータ時代の可視化について考えていきます。

日本にとって今必要なのは「科学リテラシー」

プログラム

- 10:00-10:10 開会の辞
萩原一郎 (日本学術会議会員、明治大学先端数理科学インスティテュート・副所長)
- 10:10-11:10 話題提供1 「米国におけるビジュアライゼーションの動向」
寺門和夫(一般財団法人日本宇宙フォーラム・主任研究員)
- 11:10-11:50 話題提供2 「ビッグデータからの知的発見—海洋科学の研究領域において—」
荒木文明((独)海洋研究開発機構地球情報基盤センター・グループリーダー)
高橋桂子 (日本学術会議連携会員、(独)海洋研究開発機構地球情報基盤センター・センター長)
- 11:50-13:30 昼休み
- 13:30-13:40 話題提供 3 「科学と可視化」
小山田 耕二 (日本学術会議連携会員、京都大学国際高等教育院・教授)、萩原一郎
- 13:40-14:00 話題提供 4 「融合可視化技術」
宮地英生 (サイバネットシステム株式会社アドバンスドソリューション事業部・部長)
- 14:00-14:30 話題提供5 「可視化におけるHPC活用」
中島憲宏 ((独)日本原子力研究開発機構 システム計算科学センター・次長)
- 14:30-15:00 話題提供6 「大規模計算機環境における可視化について」
小野謙二 (理化学研究所 計算科学研究機構・チームリーダー)
- 15:00-15:30 休憩
- 15:30-17:50 話題提供7 パネルディスカッション:日本版 可視化研究開発の課題トップ10
パネリスト:伊藤貴之(お茶の水女子大学・教授)、瀬尾拓史 (株式会社サイアメント
代表取締役社長・医師)、田中覚(立命館大学情報理工学部・教授)、寺門和夫、小山田 耕二
司会: 藤代一成(慶應義塾大学大学院 理工学研究科・教授)
- 17:50-18:00 閉会の辞
小山田 耕二

お申し込みはこちらから <http://goo.gl/pSvT7E>

